



『ごみ』は

自分のものです

市民リポーター

渡邊 誓子（幸町）

毎日なにげなく捨てていたさまざまなごみが、どのように処理・処分されているのか、そしてごみによる負担を減らすためには何ができるのか……。こんなことを考えながら、環境衛生課で鳴海係長さんにお話を伺いました。

まず、私が普段抱えている疑問を率直にぶつけてみました。

問・今年の四月から市指定の袋でごみを出していますが、町名と氏名を記入しなければならぬのに、少々抵抗があります。どうしても記入は必要ですか？

答・ごみは確かに不要なものです。捨てる前にもう一度考えて欲しいんです。ごみとはいえ元は自分のものなので、責任を持っていただきたいと思います。ぜひご記入ください。

問・燃やせないごみと資源ごみの分別など、四月に各家庭に配られた小冊子を見てもわからない場合があるんですが。



渡邊リポーター（左）と鳴海係長

を書いたものですから、確かにわかりにくいものがあると思います。かといって、すべてのものを書き記すことも不可能ですが、これからでもできるだけ細かく、わかりやすい形で、皆さんにお知らせしていきたいと考えています。

問・指定の袋になる前は、スーパリーの袋に入れて出したりしていました。出すごみが少しの場合でも、もう使わせる考えはないですか？

答・スーパリーの袋の使用は現在まだ模索中です。指定袋にし

てからごみの一時預かり所がとてきれいな場所になったんですが、これがまたスーパリーの袋になると、元の黙阿弥（もくあみ）になってしまう恐れがあります。今ある指定袋より小さい袋をというご要望もありますけれど、作るのには簡単でも費用・価格は大も小もそんなに変わりません。そういうこともあってか、他県で販売した結果では、結局大きい袋を買う人の方が多かったそうです。

問・最近では、市内スーパリーでも、トレーや牛乳パックなどを持っていけば回収してくれるのでだいぶ助かっています。これらはアルミ缶やスチール缶と同様、家庭では保管場所に困るんですね。

答・前にも言いましたが、ごみは収集されるまでは自分のものです。トレーに油が付いていたら洗い流し、ジュースなども飲み終えたら缶を水洗いしておけばいいと思います。各家庭で工夫し、収集日まで保管していただきたいと思います。

ます。

便利なもの発

↓ごみ箱行き

いくつかの応答の中、「ごみは自分のもの」と言われた時には、私の心の中で何かが崩れ落ちたような気持ちになりました。日常生活の中で私たちは、見栄えのする、便利な品物について手を出してしまいがちです。しかし、その結果は即ごみ箱行きということが多くに思います。ある本を読んでいて「こぼした時になんでふく？」という文章が目にとまりました。ふと自分のことを考えると、「早くティッシュ取って」とか「ティッシュでふけば」という調子で、すぐに手軽で便利なティッシュペーパーを使ってしまうています。リサイクルやごみの減量に向けて、スーパリーだけではなく町内会や子供会などさまざまなところで、地道な活動が行われているようですが、ごみ問題の根本的な解決は、こうした活動も含め、市民一人ひとりが意識していかなければ成し得ないのではないのでしょうか。

私がごみ処理場を見学していた時、ちょうど小学校の子供たちも見学に訪れました。すばらしいことだと思えます。小さいころからごみに対する意識を高



整然としたごみ一時預かり所

め、関心を持たせるようなことをどんどん取り入れて欲しいと痛切に感じました。

ほんの少し
心配りを！

今回の取材を通して思ったのは、実はごみ問題は取り立てて大げさに考える必要はないのかもしれないということです。普段の生活の中で経験する小さなことへ、ほんの少し心配りする気持ちをおこすこと、「ついつい」や「少しくらい」という気持ちを無くしていかなければならないということ、なんですよ。結局、また「ごみの話」なんて思わなくてください。耳を、いえ心の目を、少しでも向けていきませんか。

大館市民の皆さん、さて何から始めましょう。まずティッシュペーパーから始めませんか？